

中国の偏見を変えるには

高校生は社会の情報を知る機会があまりないと思う。中国の悪い噂だけを信じ、中国との交流をしない人が多いと感じた。（友達との会話の中で）また、地球温暖化などの環境問題は中国人だけが関係していると思っている人もいて衝撃を受けた。だから、まずは中国という国を知ることから始めるべきだと考えた。

訪中前はどうかだったか

- ニュースなどから中国人はマナーが悪く、日本人とは考えていることが違うと思っていた。中国人の高校生も日本人に対しての悪いイメージがあるだろうからお互いがお互いのことを受け入れられていない状態なので、日中の青少年交流は悪いイメージを軽減することから始めるべきだと思った。

訪中後はどうだったか

- 中国人は悪い人ばかりではないと感じた。中国人のルールは日本人にとって驚くこともあったが、中国人はそんな私にやさしく教えてくれた場面もあった。ごみの分別もしっかりしていて、道にはごみが落ちていなかった。やはり、日本人は最初から教えようともせず、中国のことを知ろうともせずただ偏見を持っていただけだった。また、高校生と交流した時に中国人の高校生は日本のことに興味を示し、たくさんを知っているようだった。それに比べて、私は中国のことを全然知らないんだなととても感じた。しかし、日本にいながら中国人と交流できる機会が少ない。私みたいに実際中国人と交流してみないと偏見は変えられないと思う。また、数少ない交流会は意欲のある人だけと、参加する人が限られている。しかし、私は今まで特に興味はなかったけど交流してみたらもっと相手のことを知りたくなると思う。私は実際この短期留学をするまでは交流など行ったこともなかったし、行きたくても勇気が出なかった。多くのチャンスを逃がしてきたんだと思う。日本の高校生は積極性が足りない。全員が興味をもって歓迎してくれた中国人を見習うべきだと思った。

授業の中に青少年交流を組み込む。
全員が交流できるようにする。

今まで交流したことがなかった人、もっと交流したいけど機会がない人、全員が良い経験になると思う。もっと日中関係を良くしたいと思う人が増えてくるはずだと私は考えた。

